

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。
新しい年を迎え、何か新しいことにチャレンジ!ということで、今号では「生成AI」について、先生方の「後押し」となるような情報をお伝えします。

～生成AI活用していますか?～

令和元年にスタートしたGIGAスクール構想は2ndに入り、1人1台端末や高速大容量の通信ネットワーク等、学校ICT環境の整備・活用が進められています。そのような中、最近よく耳にするのが「生成AI」です。みなさんは生成AIを学校現場で使ったことがありますか?

生成AIとは

生成AIとは、テキスト、画像、音声、動画、コードなどの新しいコンテンツを自動的に生成する人工知能技術です。近年は、テキストから画像や動画、音声を生成するなど、複数の異なるメディア形式を組み合わせた「マルチモーダル」技術が急速に進化しています。

代表的な生成AI

2022年に公開されたOpenAI社の「Chat GPT」が有名です。その後、Microsoft社が提供する「Copilot」や、Google社の「Gemini」、「NotebookLM」等がシェアを広げています。CopilotやGemini、NotebookLMは、契約や利用ポリシーに基づき、自治体で導入されるケースがあり、個人申請のツール(Chat GPT)より安全性や管理面で扱いやすい傾向があります。

生成AIの活用例

- ・行事企画や授業展開例のアイデア出し
- ・各種文書(通信、作問等)の叩き台、添削
- ・プログラミングによる作業の自動化
- ・授業で使えるコンテンツ作成
(シミュレーション アプリ、インフォグラフィック等)
- ・各種資料の整理、照会



校内研修への支援

西部教育事務所では、生成AIに関する校内研修への支援を行っています。

- ・生成AIのガイドラインや概要
- ・生成AIの校務、授業利用
- ・プロンプト(指示文)の入力例

※主にGemini (Google)
NotebookLMを使用した研修

参加者からの感想



- ・授業の流れなど一人では行き詰まるところを、アウトプットして整理することができた。今後、うまく活用していけば、時間を有効に使えて授業準備に時間をかけることができると思う。
- ・これまで自己流で使っていたが、アプリ作成、プレゼン作成 などにも使えることを知り、活用の幅を広げる機会となった。失敗しながらでも使っていくことで課題を解決したい。

●支援の様子

文書の推敲やアイデアの整理に活用された方も多く、生成AIの業務利用は着実に広がりを見せています。初めて触れた方でも、計算や理科のシミュレーションアプリをわずか数分で作成でき、その手軽さに驚きの声が上がりました。「授業づくりの新しいアイデアを得られた」との声もあり、研修は非常に活気に満ちていました。AIは日々進化しています。その変化に柔軟に対応し、前向きに活用することが、AIに使われるのではなく、AIを使いこなすことにつながっていくと感じます。

※「生成AI」は正しく使用することで、安全かつ効果的に学校現場で活用することができます。

詳しくは「生成AI
利活用ガイドライン
Vol.2.0(佐賀県
教育委員会)」を
ご参照ください。

